

第10回08/6/23 (CS3年・荒井) ネットワークプランニング ルーティングとスタティックルート

※本資料は授業後(数日以内)にWEBで閲覧できるようにします※

2008/06/23

第10回ネットワークプランニング(荒井)08

1

今日の予定

- シリアル接続の復習
- ルーティング(※7章)
 - ルーティングテーブル(※7.1-7.4)
 - ルーティングの例
 - デフォルトルート(※6章1-2)
- スタティックルートとダイナミックルート(※7.5,7.6)
- スタティックルートの設定(※ p279,353)
 - ip route nw mask next-hop
 - デフォルトルート⇒ip route 0.0.0.0 0.0.0.0 next-hop
- 演習 ; 3台のルータによるスタティックルート

2008/06/23

第10回ネットワークプランニング(荒井)08

2

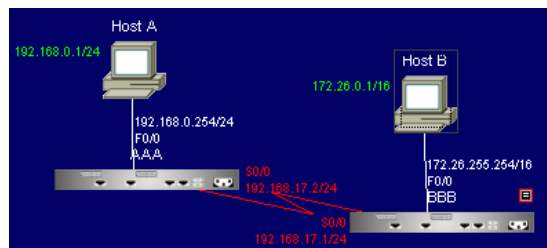
シリアル接続【復習】

- シリアルケーブルにはDCEとDTEがあり、ルータ同士をシリアルで接続する場合、どちらかをDCEとして動作させなければならない
 - DCE側には、「clock rate 64000」を設定
 - もう片方のDTEはclock rateは不要
- ルータ間も一つのネットワーク
- シリアルポートもイーサポートと同様に、IPアドレスの設定、有効化を
- 各ルータにおいて、ルータが直結していないネットワークに対しては、スタティックルートを設定
 - ip route コマンド

2008/06/23

第10回ネットワークプランニング(荒井)08

3



- ルータA(シリアル:DCEとする)
- S0/0, F0/0のIPを設定し、有効化
- S0/0のclock rateを設定
- ip route 172.26.0.0 255.255.0.0 192.168.17.1
 - ルータB(シリアル:DTEとする)
- S0/0, F0/0のIPを設定し、有効化
- ip route 192.168.0.0 255.255.255.0 192.168.17.2

2008/06/23

第10回ネットワークプランニング(荒井)08

4

ルータにおけるping

- 今までhost(PC)からpingをしていた
 - ルータからもpingをかけられる
 - 特権モード or ユーザモードにてping可能
 - ping IP-address
 - 但し結果の表示がhostとは違う
 - デバッグ
 - pingが通らない場合は、通りの順番にpingをかけて、どこまで通るかを調べよう
- ★ping成功例
- ```
Router>ping 192.168.0.1
Type escape sequence to abort.
Sending 5, 100-byte ICMP Echos to 192.168.0.1, timeout is 2 seconds:
!!!!!!
Success rate is 100 percent (5/5), round-trip min/avg/max = 4/4/4 ms
```
- ★ping失敗例
- ```
Router>ping 192.168.0.3
Type escape sequence to abort.
Sending 5, 100-byte ICMP Echos to 192.168.0.3, timeout is 2 seconds:
.....
Success rate is 0 percent (0/5), round-trip min/avg/max = 0/0/0 ms
```

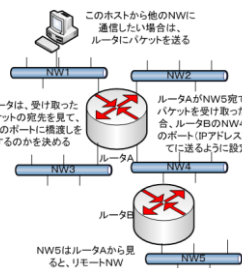
2008/06/23

第10回ネットワークプランニング(荒井)08

5

ルーティング(※7章)

- ルータ(ネットワーク層のデバイス)によってネットワークとネットワークを接続
- 自ネットワークではない(リモート)ネットワークにアクセスするための経路制御、異なるネットワーク宛の packets を転送するためのプロセス
 - ルータの最大の役割
 - ルータはネットワークとネットワークの橋渡し
 - 何でも渡せばよいというものではなく、どのようなものをどこへ渡すか選択



2008/06/23

第10回ネットワークプランニング(荒井)08

6

ルーティングテーブル

- 経路制御表と呼ばれる
- 経路情報のデータで、これを利用しルーティング先が決定される
 - 宛先NW with Netmask, Gateway, Interface/NextHop, Cost/Distance などの情報
 - ルータでは、Gateway情報は不要で、どのI/F(ポート)にパケットを流せばよいかわけを指定すればよい
 - Interfaceとは、ルータのポート: Serial0/0とか Fastether0/1など
 - NextHopとは、ポートの先のIPアドレス
 - ある宛先(NW)のパケットは、あるInterfaceへ橋渡し
 - 例: NW-A → Fether0/0へ、NW-B → Serial0/1へなど
 - リモートNW-C → 192.168.XX.XX (IPアドレス) へなど

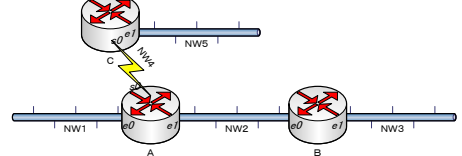
2008/06/23

第10回ネットワークプランニング(荒井)08

7

ルーティングの例

- NW1へのパケット
 - ルータAではNW1側(自身のe0)へ、
 - ルータBではNW2側(e0を経由してルータB[e1])へ、
 - ルータCではNW4側(s0を経由してルータA[s0])へルーティング
- ルータAにおいては、
 - NW1→e0、NW2→e1、NW3→e1(經由ルータB[e0])、NW4→s0、NW5→s0(經由ルータC[s0])と5つ全てのNWに対する経路が必要となる
 - これ以外のNW宛のパケットは破棄されてしまう
 - 各ルータにおいて、それぞれ最適なルーティングを決めて設定



2008/06/23

第10回ネットワークプランニング(荒井)08

8

デフォルトルート(※p279,353)

- 例えばインターネットは、非常に多くのネットワークが接続されている。
- 数多くの全てのNWに対して個々に経路情報を各ルータに設定することは現実的に不可能。
- →このような場合、デフォルトルートを利用。
- デフォルトルートとは、
 - ルーティングテーブルに登録されていないネットワーク宛に適用されるルーティング情報
 - 例えば先の例でNW3からインターネットに接続しているとすれば、全てのルータにおいて、現在のルーティング情報に加えて、デフォルトルートをルータB方向にしておけばよい。
 - CiscoではNW、SubnetMaskを共に「0.0.0.0」をデフォルトルート(つまりその他全てのNW)として表現
 - これを用いて、「ip route」コマンドで設定
 - ip route 0.0.0.0 0.0.0.0 xxx.xxx.xxx.xxx(宛先IP-ad)

2008/06/23

第10回ネットワークプランニング(荒井)08

9

ルーティングの決定について

- ネットワーク設計者は、利用用途や人数などを考慮の上、ネットワークの本数や、大きさ、そしてつなぎ方を決めて、ネットワークポロジを設計する
- トポロジが決まったら、IPアドレスの設計とともに、各ルータにおけるルーティングについて検討・設計しなければいけない
- ルーティングの設定には、静的ルーティング(スタティックルート)と動的ルーティング(ダイナミックルート)の2種類があり、これも設計者は設計する。
 - 静的; 管理者が手動でルータに経路制御情報を設定
 - 動的; ルーティングプロトコルによって、自動的に経路制御情報が調整される

2008/06/23

第10回ネットワークプランニング(荒井)08

10

スタティックとダイナミックルートの比較(※7.5,7.6)

- スタティックルート
 - 管理者: 手作業。トポロジ変更があれば適宜修正
 - ルータの負荷: 小さい
 - ネットワーク規模: 小規模、末端NW(スタブ: ルータに対して一ヶ所だけで接続されているNW)に有効
 - セキュリティ: 高い
- ダイナミックルート
 - 管理者: 自動設定。但し初期設定時にはそれなりの知識が必要
 - ルータの負荷: 大きい
 - ネットワーク規模: 小〜大規模に有効
 - セキュリティ: 低い

2008/06/23

第10回ネットワークプランニング(荒井)08

11

スタティックルートの設定(※7.5)

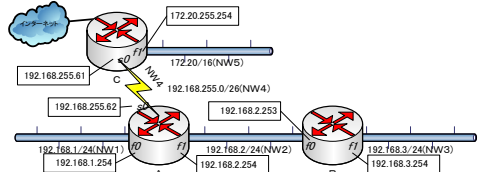
- 各ルータに、静的(固定)の経路情報を手動で設定する方式
- [confモードにて] ip route コマンド
 - ip route nw mask next-hop
 - ip route 192.168.3.0 255.255.255.0 192.168.2.253
 - ip route 0.0.0.0 0.0.0.0 192.168.255.61 ←Def-rtの例
 - 「nw」は、ネットワークアドレスで、IPアドレスではないことに注意
 - 「next-hop」、つまり届先のルータのIPアドレスを指定する
 - なお、ルータ自身が直接接続しているNWは、設定する必要はない

2008/06/23

第10回ネットワークプランニング(荒井)08

12

スタティックルートの設計・設定例(1)



- スタティックルートをまだ設定していない状態のルーティングテーブル (show ip route)
- ルータA:
 - 直結 192.168.1.0 f0/0
 - 直結 192.168.2.0 f0/1
 - 直結 192.168.255.0 s0/0
- ルータB:
 - 直結 192.168.2.0 f0/0
 - 直結 192.168.3.0 f0/1
- ルータC:
 - 直結 192.168.255.0 s0/0
 - 直結 172.20.0.0 f0/1
- このままだと例えば、NW3からNW1やNW5にping不可

2008/06/23

第10回ネットワークプランニング(荒井)08

13

具体的なスタティックルートの設定例(2)

- 各ルータのスタティックルートを設定する
 - Def-routeはルータCの方に向かって近いルータを指定
 - 各ルータにおいてリモートNW全てを設定
- ルータAの設定例
 - ip route 192.168.3.0 255.255.255.0 192.168.2.253
 - ip route 172.20.0.0 255.255.0.0 192.168.255.61
 - ip route 0.0.0.0 0.0.0.0 192.168.255.61
- ルータBもルータCも設定しよう
 - 但し今回はルータCでDef-routeは設定しない
 - またルータBではDef-routeのみでOKのはず
- 設定したらルーティングテーブルを表示させて確認しよう。そして各所のホストから各所のホストにping

2008/06/23

第10回ネットワークプランニング(荒井)08

14

IPクラスレスの設定(p355)

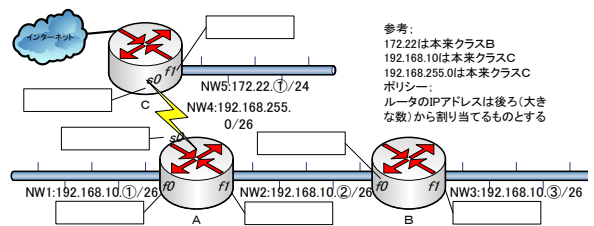
- サブネットを利用する場合は、IPクラスレスの設定に注意
 - サブネット; 本来のクラスA、B、Cを分割してサブネット化した場合
- 経路制御表にないサブネット宛の packets は、デフォルトルートが適用されず、破棄されてしまう
 - サブネットを通常の一つのネットワークとして扱うためには、IPクラスレスの設定をしておく必要がある
 - 但し、デフォルトで設定されている
- ip classless [confモード内]
 - P356の例を理解しておこう

2008/06/23

第10回ネットワークプランニング(荒井)08

15

演習; まずはIPの設計



- 192.168.10.①/26とあるのは、サブネット化した一番目を意味するものとする
- □内と①～③に具体的な数字(IP-address)を埋めよう

2008/06/23

第10回ネットワークプランニング(荒井)08

16

演習; ルーティングの設計

- 次に各ルータにおけるルーティング情報を設計しよう
 - 全てのネットワーク間で通信できるようにすること
 - 全てのネットワークからインターネットと通信できるようにすること
- 各ルータ (A, B, C) 各々において、自分が接続していないNWに対するネクストホップ (ルーティング先のルータ) のIPアドレス
- ルータA, Bにおいて、デフォルトルート先を、ルータC側へ
 - ルータCでは今回はデフォルトルート先、つまりインターネットへのIPがわからないので、設定しないものとする

2008/06/23

第10回ネットワークプランニング(荒井)08

17

演習; ルーティングの設計

ルータAのルーティングテーブル

宛先 NW	Next-Hop	I/F
Def-RT		
NW1	Direct	F0/0
NW2	Direct	F0/1
NW3		
NW4	Direct	S0/0
NW5		

デフォルトルート(Def-RT)の設定により、省略できるRT情報がある。但しルータAではDef-RTを設定しても、NW5に対するRT情報を設定しよう

2008/06/23

第10回ネットワークプランニング(荒井)08

18

ルータBのルーティングテーブル

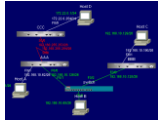
宛先 NW	Next-Hop	I/F
Def-RT		
NW1		
NW2	Direct	F0/0
NW3	Direct	F0/1
NW4		
NW5		

ルータCのルーティングテーブル

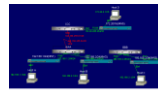
宛先 NW	Next-Hop	I/F
Def-RT		
NW1		
NW2		
NW3		
NW4	Direct	S0/0
NW5	Direct	F0/1

演習;トポロジ設計(NV4)

- NV4で各機器を配置、接続
 - インターネットは無視するものとする
 - ルータ×3台
 - ルータAとBの間のNWは、スイッチングハブ(どちらでもOKだが、1900にしよう)で構成するものとする。その他のNWはホストを直結しても1900を入れてもどちらでもよい
 - 各イーサNW上にホストを1台ずつ設置(4台)
 - NW1:192.168.10.①、NW3:192.168.10.③、NW5:172.22.①はルータから直接ホストを接続し、
 - NW2:192.168.10.②は、ハブからホストを接続する
 - ルータAとCはシリアルで接続し、DCEは(どちらでもOKだが)ルータAとする。
 - ※NW4:192.168.255/26の①番目のサブネットとする



もしくは



2008/06/23

第10回ネットワークプランニング(荒井)08

19

演習;各機器の設定

- ホスト4台の設定
 - IPアドレス、サブネットマスク、デフォルトゲートウェイを各4台に適切に設定
- ルータ3台の設定
 - 混乱しないように各ルータにhostnameを設定
 - 接続した各I/Fを有効化し、IPアドレスを設定
 - DCEのシリアルI/Fにはclock rateを設定
 - 各ルータに適切なスタティックルート(デフォルトルートを含む)を設定
 - show ip route で確認
 - show running-config で全設定を確認

2008/06/23

第10回ネットワークプランニング(荒井)08

20

演習;疎通確認

- 各ホストから、各ホストへpingによる疎通確認をしよう
 - ルータからもping可能(Winとは表示が違うので注意)
 - まずは隣のホストへ
 - 段々と遠くのホストへ
 - 各ホストから全てのホストに対してping可能であればOK
 - もしpingが通らなかつたら、ルータを含め一つずつ手前のIPにpingしていく。
 - OKな所とNGな所の間がおかしいはず
 - 逆からのpingもかけてみよう
 - ルータのルーティング情報や各機器のIPアドレス、ネットマスクなどの各種設定を含めて間違いないかをきちんと確かめよう。
 - 今回は、インターネットへの通信の確認は不可能
 - 設定していないのでこれは仕方がない

2008/06/23

第10回ネットワークプランニング(荒井)08

21

演習;保存と提出

- 完成した(NV4の)ネットワークを保存
 - ファイル名は「学籍番号-0623」とする
 - 完成していなくても(きちんと動作していなくても)、保存してください。
- ネットワークフォルダ(weekly)に、保存したファイルを提出
 - 完成していなくても(きちんと動作していなくても)、必ず提出してください。

2008/06/23

第10回ネットワークプランニング(荒井)08

22

今日のまとめ

- □シリアル接続の復習
- ○ルーティング(※7章)
 - ○ルーティングテーブル(※7.1-7.4)
 - ○ルーティングの例
 - ○デフォルトルート(※6章1-2)
- ○スタティックルートとダイナミックルート(※7.5,7.6)
- ○スタティックルートの設定(※ p279,353)
 - ip route nw mask nexthop
 - デフォルトルート⇒ ip route 0.0.0.0 0.0.0.0 nexthop
- ●演習;3台のルータによるスタティックルート

2008/06/23

第10回ネットワークプランニング(荒井)08

23